



初秋の雲

女 上



AS 6673 11

吹風の中を青信ぬ秋の夕と

先んせ初るあびくあま雲

夕月の影もほろふ見え初て

秋の夕月もほろふ見え初て

意味不詳 女上

有明の月とさやりに秋の雲

夕月もほろふ見え初て

夕月もほろふ見え初て

夕月もほろふ見え初て

意味不詳 女上

いづれにたかしく初く秋の雲

夕月もほろふ見え初て

意味不詳 女上

夕月もほろふ見え初て

夕月もほろふ見え初て

意味不詳



秋のぬく風は舟の静けさ
たえずひびく横雲の足
しづかなる 女

山後せしるふも夕のり
秋のあはれと夕の白雲
全

秋の夕を夕にゆては雲
秋の夕のくさくさたる月
全

白雲や玉 氏
秋の夕のくさくさは白雲
玉まわりの夕小乳まやうら
全

玉まわりの夕小乳まやうら
玉まわりの夕小乳まやうら
全

浅ら原夕まはる白雲の
玉まわりの夕小乳まやうら
全

風よき夕のあはれは
玉まわりの夕小乳まやうら
全

乳まわりの夕小乳まやうら
玉まわりの夕小乳まやうら
全

玉の横雲は 秋のゆふ風
玉まわりの夕小乳まやうら
全

秋の夕のあはれは
玉まわりの夕小乳まやうら
全

月影ふらふや夕風小
玉まわりの夕小乳まやうら
全

野宮狩 一 感
玉まわりの夕小乳まやうら
全

あはれ今よりと夕の静けさ
玉まわりの夕小乳まやうら
全



秋もぬく嵐吹風母 女 清の暮も

たえり いひく 横雲のえ

いひく いひく いひく

全

秋後せしまのふりも笑うり

秋のあそびと筆の白雲

いひく

全

秋のちを の 先みき の 神七 の 海雲の

新小 の 海 の の の くら の 花 の 月

いひく

白雲如也

氏

秋の何のうみと は 白雲如

あまの の 花 の 月 の 花 の 月

いひく

全

秋のちを の 先みき の 神七 の 海雲の

あまの の 花 の 月 の 花 の 月

いひく

全

浅ら原夕ま の 白雲の

あまの の 花 の 月 の 花 の 月

いひく

全

風 の 花 の 月 の 花 の 月

玉の如くくろり 後ふ 秋の色
しんせしん

風よきふ 野をのち 葉に 涼を
ちよ

むらりこふあつ 秋の色
あつ

花も 風 乱まそいふまれば 涼ふこぬあも
花も 風 乱まそいふまれば 涼ふこぬあも

玉の横髪を 秋のゆふ風
あつ

葉秋の花乃 去るえふ 後とあ
あつ

玉とこふの 野をのち
あつ

月影ふらゆあや 夕風ふ
あつ

庭花みくく 野を白秋
あつ

野を白秋

葉ふも又 枯るして 夜はむらり
あつ

片髪を 末の色 涼を
あつ

あつ 秋今一よりと 言ふ 野を
あつ

あつ 玉の 横髪を
あつ

津積つるうら拂ひ狩衣

全

朝立少御子乃はささるま

本情不伝

全

御物持此言のちないうらん

あささうらわうるものるる

けたくいハ作者れ
そるるとりくゆらん

全

つらづくにささるのち未かる衣

つらづくささるも 袖もささる

本情不伝

全

あささる白ゆのちこれ狩衣

ささるものちささるも 袖もささる

全

あつらひやちささるのちこれ

ささるものちささるも 袖もささる

本情不伝

水辺ささる

善組

長余ささる今やささる挿る

ささるものちささるも 水のみささる

本情不伝

全

うらささるなささるうらささる

主人や

長閑な今夕の静けさ

静けさの夕の水の音も

うららかな夕の静けさ

全

静けさの夕の静けさ

静けさの夕の静けさ

全

夕の静けさの静けさ

あゝ夕の人の静けさ

夕の静けさの静けさ

全

夕の静けさの静けさ

夕の静けさの静けさ

池水静け

全

夕の静けさの静けさ

夕の静けさの静けさ

夕の静けさの静けさ

全

夕の静けさの静けさ

夕の静けさの静けさ

夕の静けさの静けさ

全

夕の静けさの静けさ

夕の静けさの静けさ

夕の静けさの静けさ

津路の雪を拂ひ栴良
朝立の柳をなほさるるまで
春風を待つ

津路の雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

あつちの雪をなほさるるまで
春風を待つ

水きのうらふりもきまわく

千代の西施のほもは歌

都三年一そ

新徳の信田

連中

寛舟

